グリーンピア三陸みやこ仮設住宅における
ヒアリング調査結果（10/13 実施）

平成 23 年 12 月

岩手大学工学部　社会環境工学科　都市計画学研究室

（結果の概要）

Ⅰ.調査概要

当研究室(岩手大学工学部社会環境工学科：都市計画学研究室)は 10 月 13 日(木)に、応急仮設住宅入居者を対象としたヒアリング調査を行った。調査件数は 52 件で、調査内容は、主に買い物や通院の活動状況や生活の満足度、復興に関する意識である。調査対象者のうち、年齢は 70 代の方(38.5%)が最も多く、性別では男性が 14 名(26.9%)で女性が 38 名(73.1%)であった。

Ⅱ.調査結果

１．自動車の保有状況

個人で所有、家族で所有を合わせて 79%の方が自動車を利用できる状況にあった。7 月の調査では 80%であり、同様な結果となった。平成 22 年に内閣府が実施した調査によると、高齢者が自分で自動車を運転する割合は町村地区では 62.2%で、これを下回る結果であった。

２．買い物の活動状況

88.5%の方がたろちゃんハウス(共同仮設店舗)の利用経験があり、57.7%の方は宮古市街地にも買い物に出かけている。7 月ではたろちゃんテントが 17.5%、宮古市街地が 62.5%であり、行き先に大きな変化があった。これは近さや商品の品揃えが良くなったことが要因として考えられる。宮古市街地への交通手段は、「自分で運転」が 35 人中 19 名(54.3%)で最も多かった。

３．衣食住・交流の満足度（1 点：とても不満　⇔7 点とても満足　の 7 段階で評価）

それぞれの平均点は、衣 4.32、食 5.15、住 4.58、交流 4.96 であった。7 月と比べて住のみが上昇し、他は低下した。仮設住宅に風除室が設けられるなどの改善があったことが要因として考えられる。また食のみ平均が 5 点以上で、食事面では元の生活に戻りつつあるという意見も挙がった。

４．復興に関する意識

復興の実感があると答えた方は 36%、1 年後の生活が今より良くなっていると思うと答えた方は 31%と、両者とも全体の 3～4 割程度であった。生活が元に戻ってきたというのが復興を実感する大きな理由であった。また、交流の満足度が高いほど復興の実感を持ちやすいという関係も見られた。9 月に宮古市が行なった説明会では 13%(家族が参加したを除く)の方が参加し、今後の説明会等へは 74%(37 名)の方が参加したい、14%の方が興味はあると回答した。参加条件として、「時間(都合)が合えば参加する」が最も多かった(37 名中 54.5%)。

５．7 月に行った調査との比較

7 月・10 月両方の調査にご協力頂いた 20 名を対象に比較を行なった。通院について変化は見られなかった。買い物では、行き先がたろちゃんテント 2 名→たろちゃんハウス 15 名、宮古市街地 16 名→9 名と大きく変化した。以前までバスで宮古市街地に出かけていた人がたろちゃんハウスに行き先を変更したパターンが要因として挙げられる。しかしバスを利用した宮古市街地への通院も見られ、路線バスのニーズは失われていない。

Ⅲ.まとめ

○自家用車の保有率はおよそ 8 割で、前回と変わりなかった

○買い物の行き先では、たろちゃんテントからたろちゃんハウスに変わり利用者が増えた。

○食は前回と同様に比較的満足度が高い。住の満足度は、仮設住宅が改善された影響で上昇した。

○復興の実感がある人は 4 割に満たないが、交流が盛んな人ほど復興を実感する傾向にある。

○まちづくりへの関心は高く、説明会にも都合が合えば参加してもいいという人が 5 割以上いる。

目次

Ⅰ．はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・　ｐ３～４

１．本調査の概要　・・・・・・・・・・・・・　ｐ３
２．木曽集計結果　・・・・・・・・・・・・・　ｐ３～４

Ⅱ．調査結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　ｐ５～２２

１．買い物の活動状況　・・・・・・・・・・・　ｐ５
２．通院の活動状況　・・・・・・・・・・・　ｐ９
３．衣食住・交流の満足度　・・・・・・・・　ｐ１１
４．復興感と集会の参加意思　・・・・・・・　ｐ１４
５．７月の調査結果との比較　・・・・・・・　ｐ１８

Ⅲ．自由記述集　・・・・・・・・・・・・・・・・　ｐ２３～２４

Ⅰ．はじめに

１．本調査の概要

○実施日　・・・　１０月１３日（木）の１１時～１５時

○方法　・・・　当研究室の学生９名がグリーンピア三陸みやこ敷地内の仮設住宅を直接訪問し、１件あたり 15 分程度のヒアリング調査を行なった。

○設問内容　・・・　1)買い物、通院などの活動状況
2)衣食住の満足度
3)集会の参加意思・条件
4)個人属性

○目的　・・・　仮設住宅で生活されている方の活動状況や生活満足度を把握し、今後の生活環境改善やまちづくりに関する研究に活かすこと。
また、7 月に行なったヒアリング調査との比較を行い、活動状況や生活満足度の変化を追うこと。

２．基本集計結果

○調査件数　・・・　52 件

○年齢別回答者数

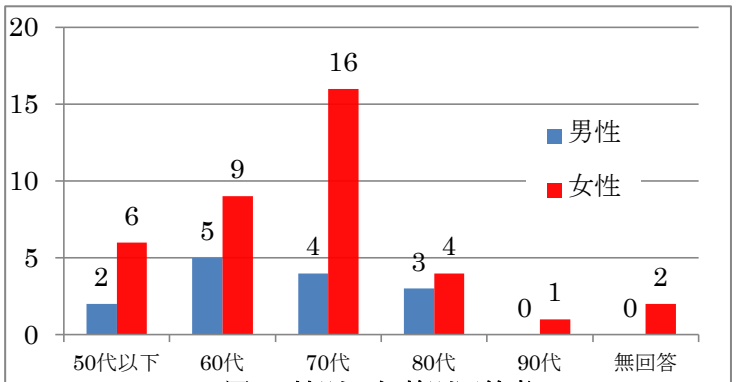

図1　性別・年齢別回答者

50 代以下　・・・　8 件（15.4%）
60 代　・・・　14 件（26.9%）
70 代　・・・　20 件（38.5%）
80 代　・・・　7 件（13.5%）
90 代　・・・　1 件（1.9%）

○性別回答者数

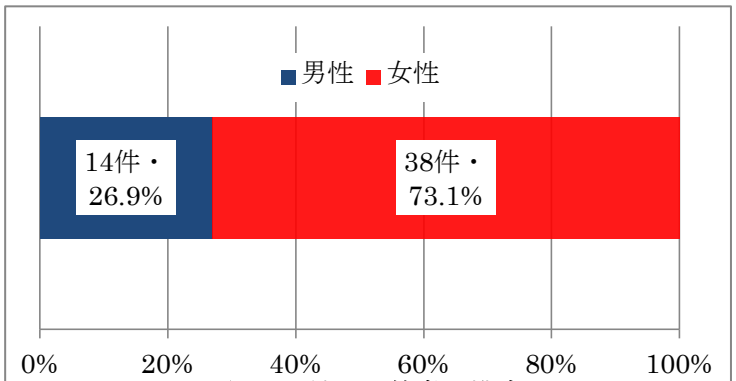

図２　性別回答者の構成比

男性　・・・　14 件（26.9%）
女性　・・・　38 件（73.1%）

○自動車保有状況

図 3 は調査対象者の自動車保有状況を示しており、個人で所有している方が 17 名(33%)、家族が所有している方が 24 名(46%)、計 41 名(79%)が自動車を利用できる状況にあることがわかった。内閣府が平成 22 年に実施した「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」によると、外出手段のうち自分で自動車を運転する割合は全国で 50.7%、町村地区で 62.2%である。本調査結果は 33%であり、これを下回る結果であった。なお、7 月に行なった調査結果では、「個人で所有」が 42%、「家族が所有」が 38%で計 80%の方が自動車を利用できる状況にあり、今回の調査を同様な結果となった。

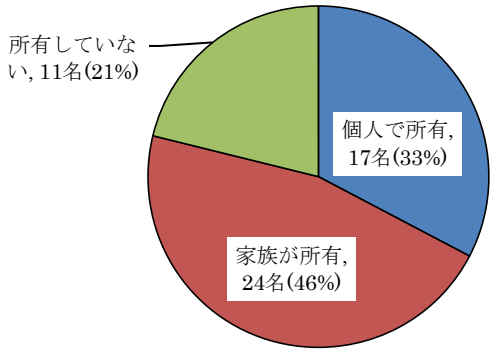

図３　自動車保有状況

Ⅱ．調査結果

１．買い物の活動状況

１－１．行き先と交通手段

行き先(図 3、複数回答有り)は、30 件(57.7%)の方が宮古市街地と回答し、46 件(88.5%)の方がたろちゃんハウスを利用していると回答した。前回と調査(7 月実施)と比べ、宮古市街地が減少し、たろちゃんハウス(7 月時点ではたろちゃんテント)が増加した。これは、たろちゃんテントからたろちゃんハウスに変わったことが要因であると思われる。

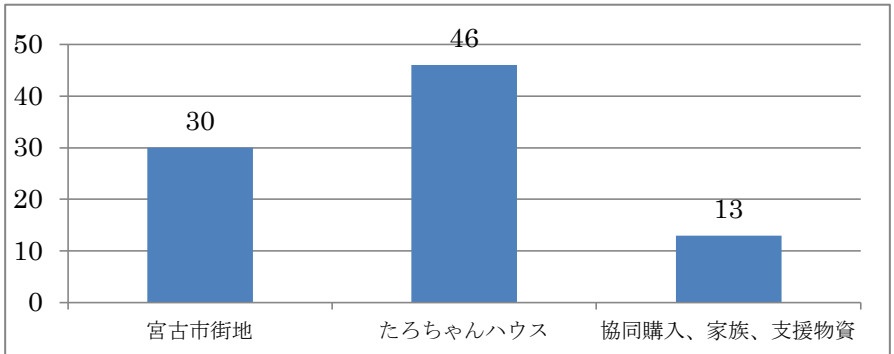

図４　買い物の行き先

交通手段(図 4、複数回答有り)では、たろちゃんハウス利用者とみられる徒歩の回答が多かった。他では自分で運転(19 件、36.5%)が最も多かった。道が舗装されたことで自転車の利用もみられた。

個人に注目した交通手段(図 5)では、バスの利用者は 1 割ほどで、「自分で運転する」「徒歩・自転車」を主な交通手段として利用する人が、それぞれ 4 割弱ほどいることがわかる。

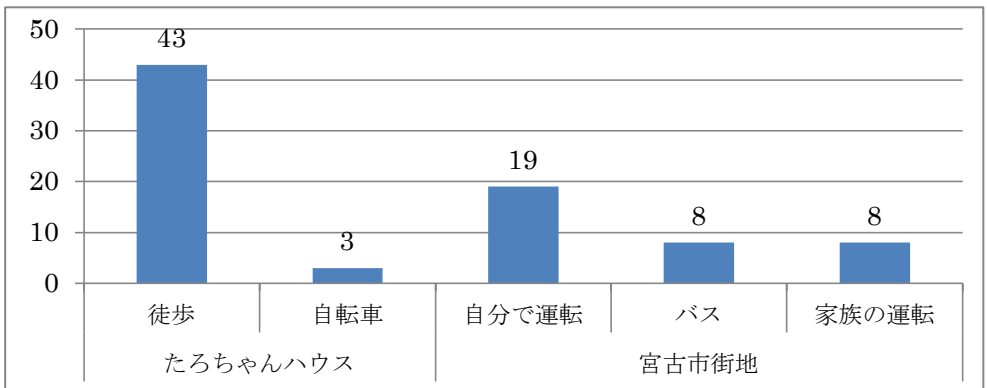

図５　買い物の交通手段

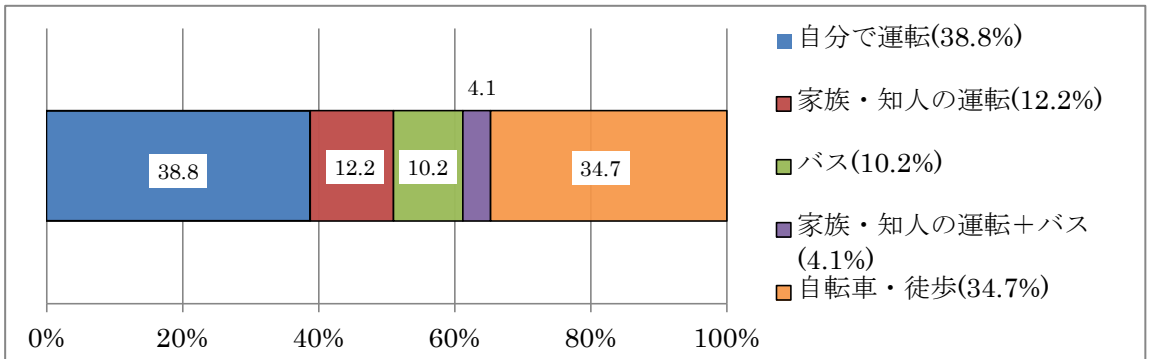

図６　買い物の交通手段構成

１－２．頻度と時間帯

頻度では、週 1~2 回の回答が最も多く、全体の 55.8%であった。(図 6)

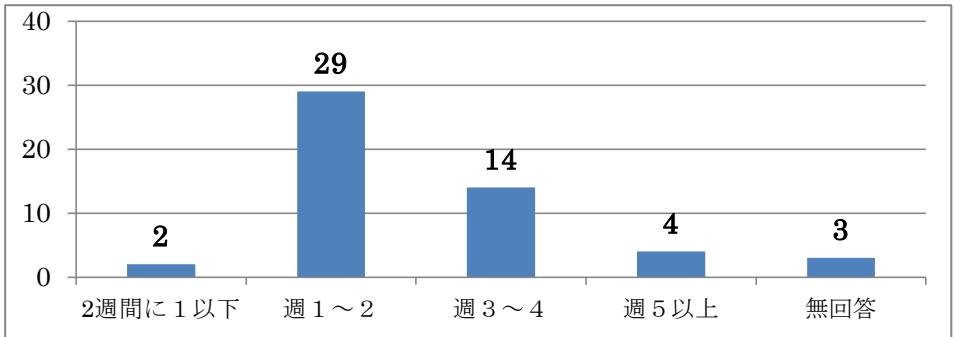

図７　買い物の頻度

時間帯(出発時間)では、午前、午後ともに 20 件で、それぞれ 38.5%であった。(図 7)

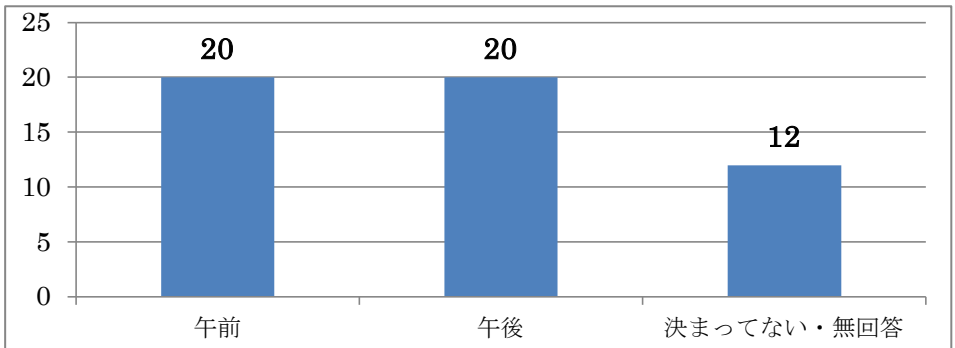

図８　買い物の時間帯（出発時間）

行き先別の時間帯(図 8)では、たろちゃんハウスは午後が、宮古市街地は午前がわずかに多いという結果となった。

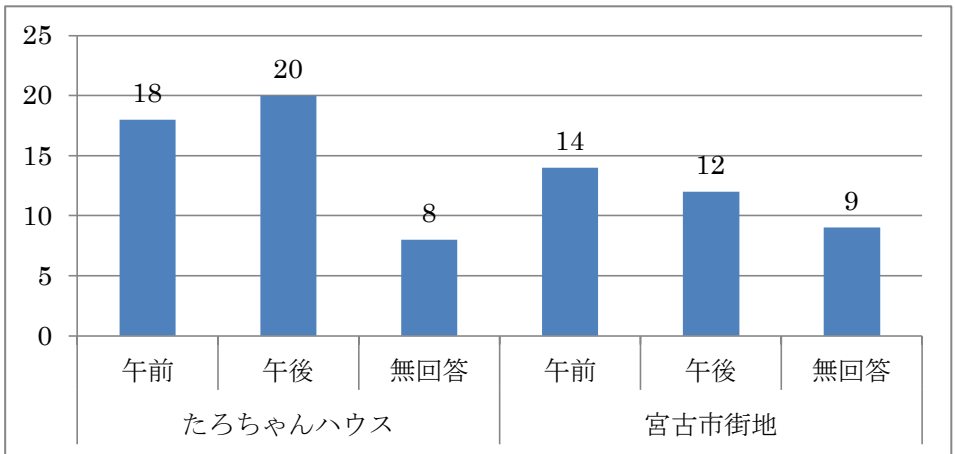

図９　買い物　行き先別時間帯

交通手段別の時間帯(図 9)では、「自分で運転」は午前が多く、「バス」は午後が多いという結果となった。それ以外では、大きな差は見られなかった。

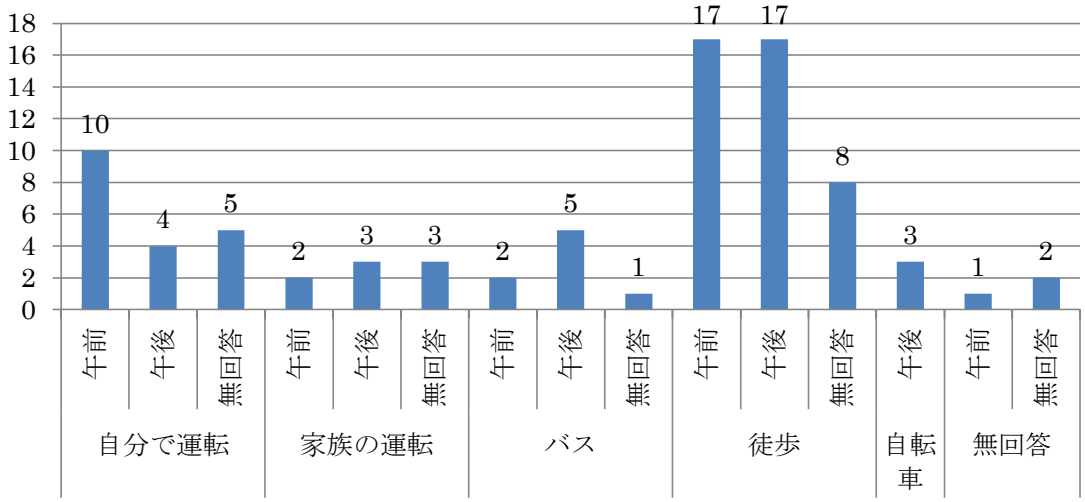

図１０　買い物　交通手段別時間帯

頻度別の時間帯(図 10)では、週１～２回では午前中が、週３～４回では午後に買い物を行なう人が多いという結果が出た。

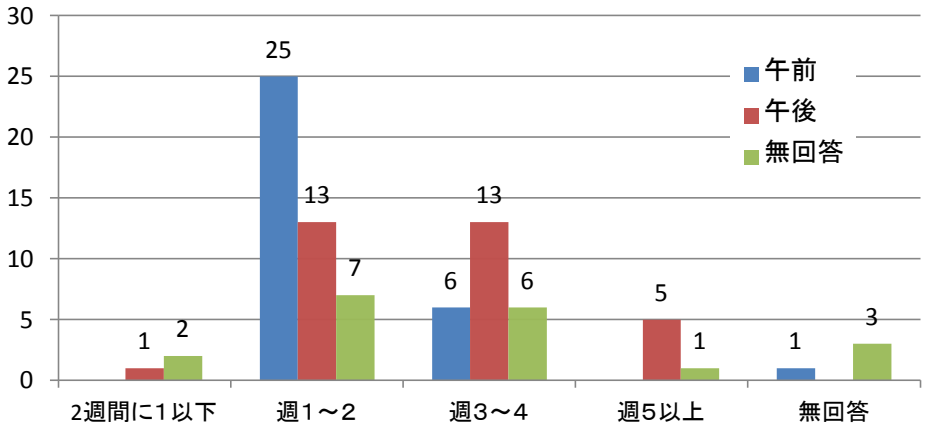

図11　頻度別の時間帯

１－３．たろちゃんハウスの便利な点

たろちゃんテントからたろちゃんハウスへと変わり店舗の種類や数が大きく増加したが、利用者の感じる便利な点を調査した。

結果としては、「移動距離近い」「商品の品揃えが良い」の回答が多かった。近さと品揃えの２点に利用者は利便性を感じていると考えられる。

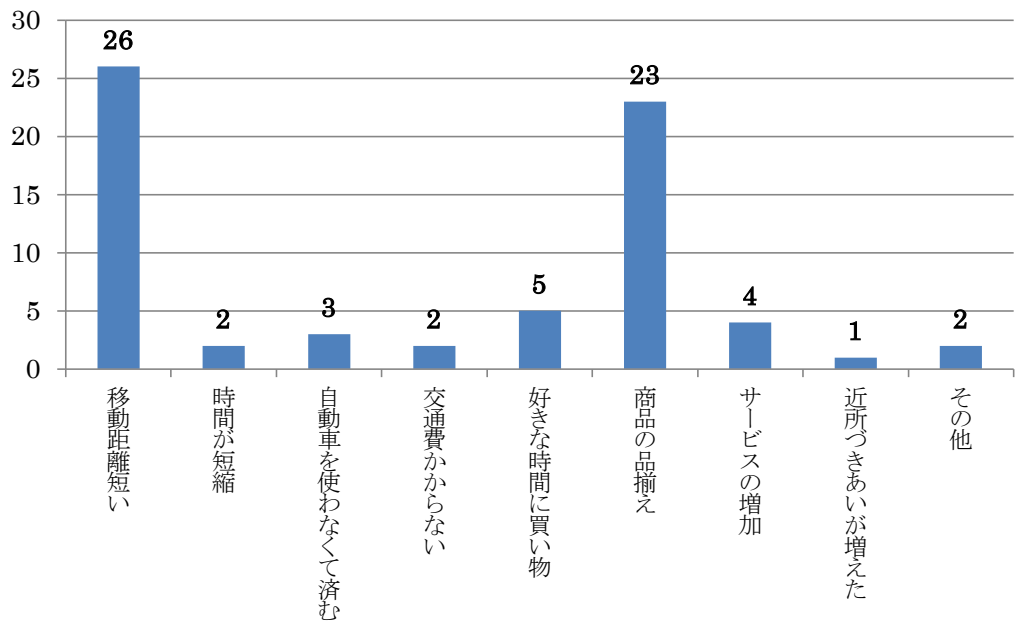

図１２　たろちゃんハウスの便利な点

２．通院の活動状況

２－１．行き先と交通手段

通院の行き先(図 13、複数回答有り)では、グリーンピア内の診療所が 28 人(53.8%)、宮古市街地に 20 人(38.5%)という結果が得られた。グリーンピア内の診療所は利用者が多く大きな役割を果たしていると考えられる。

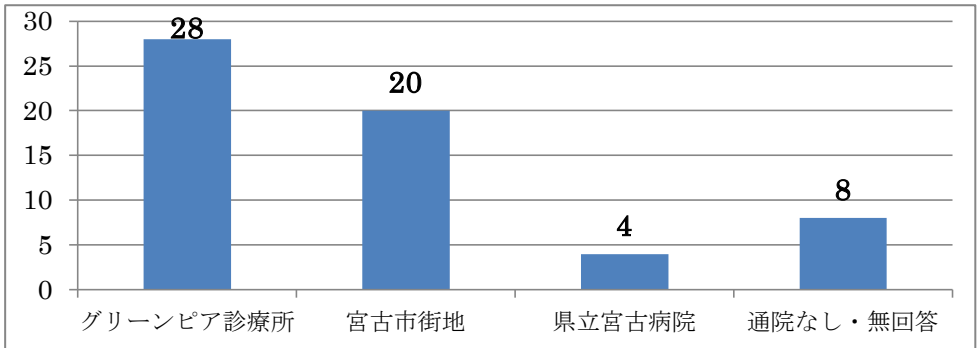

図１３　通院の行き先

交通手段(図 14、複数回答有り)では、宮古市街地や県立宮古病院に通院する際のバスの利用が目立つ。買い物では自分で運転するという人が多かったが、通院が必要な方にとってバスが重要な交通手段となっていると考えられる。

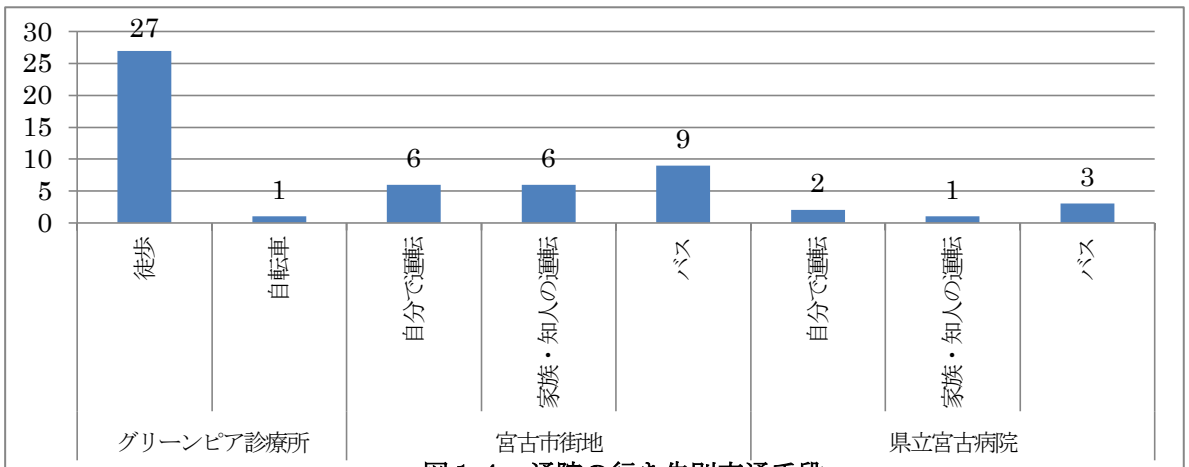

図１４　通院の行き先別交通手段

２－２．頻度と時間帯

頻度(図 15)では月 1 回(通院者 44 人中 45.5%)の回答が最も多かった。

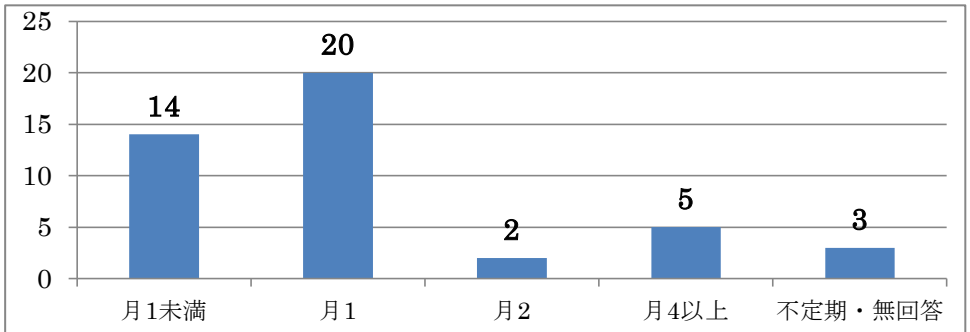

図１５　通院の頻度

通院の時間帯(図 16, 17)では、行き先に関わらず午前中に通院する方が多く、宮古市街地については午後に通院する方はいなかった。交通手段別に見ても、午前中の通院が多い。

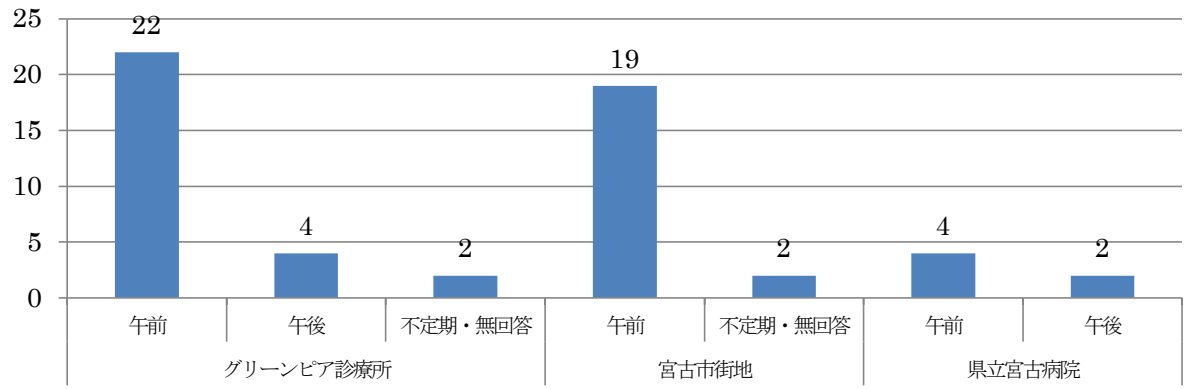

図１６　通院　行き先別時間帯

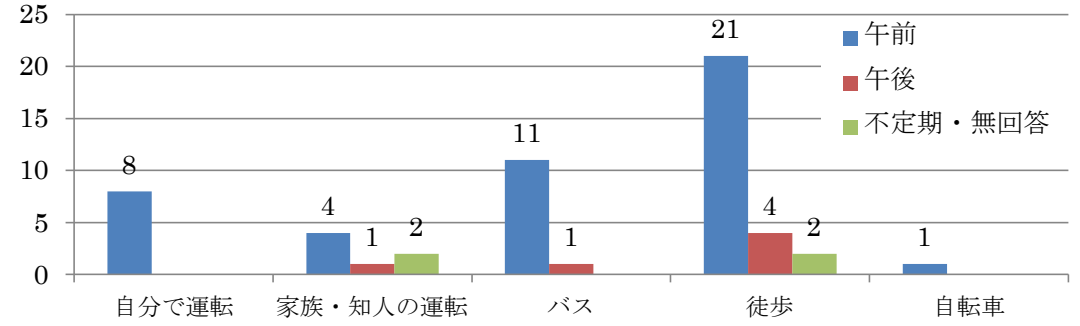

図１７　交通手段別の時間帯

３．衣食住・満足度について

（1:とても不満　2:少し不満　3:不満　4:どちらでもない　5:少し満足　6:満足　7:とても満足）

上記の７段階を用意し、それぞれの項目で満足度を回答して頂いた。

３－１．衣の満足度

衣の満足度では、平均点は 4.32 で最多の回答が 5 点(52 人中 30.8%)であった。
冬物の不安や、他所へ着ていく服が無いという意見が挙げられた。

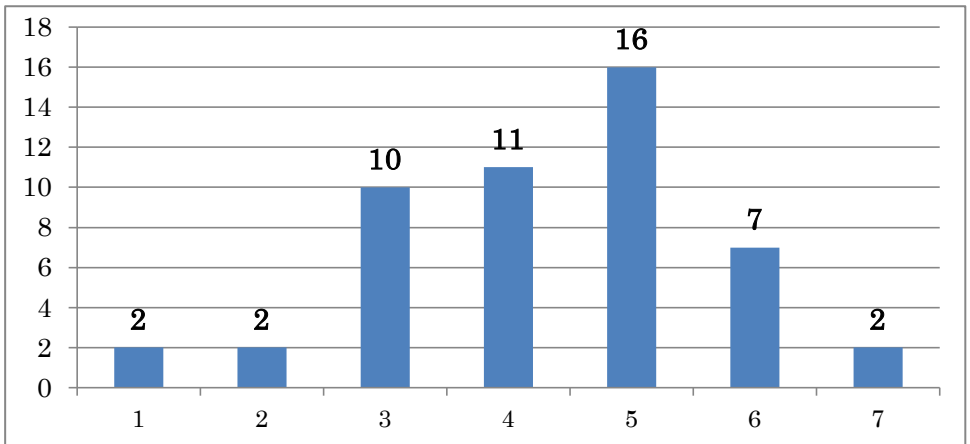

図１８　衣の満足度

３－２．食の満足度

食の満足度(図 19)では、平均点は 5.15 点(各満足度の中で 1 番高い)で、最多の回答は 5 点と 6 点だった(ともに 28.8%)。ほとんどの方が 3 食しっかりと食べており、震災前の食事に近づいてきたという声や生もの・肉系も食べられるようになったという声もあった。

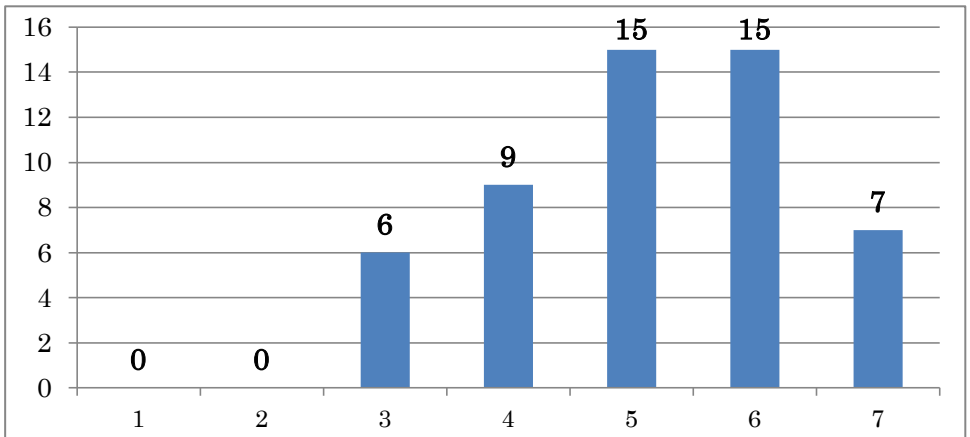

図１９　食の満足度

３－３．住の満足度

住の満足度では、平均点が 4.58 で、最多の回答が 5 点(25%)であった。回答は 3～6 点に集中しており、個人差が大きいものと思われる。7 月の調査と比較すると満足の回答が多く、これは風除室の設置や仮設住宅団地内の道路舗装の影響であると考えられる。

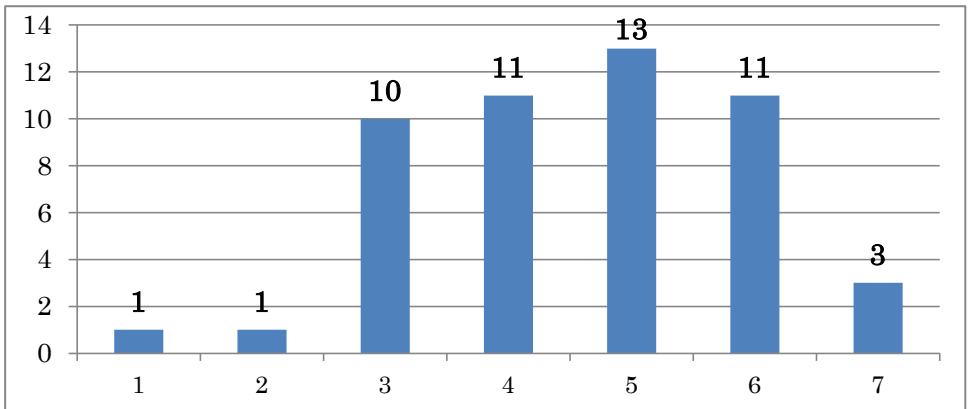

図２０　住の満足度

３－４．交流の満足度

交流の満足度(図 21)では、平均点は 4.96 点で、最多の回答は 4 点(30.8%)であった。
ヒアリング調査により、近所づきあい・仮設住宅入居者同士の交流も確認されており、これは不満(1～3 点)と回答した方が少ない要因であると考えられる。

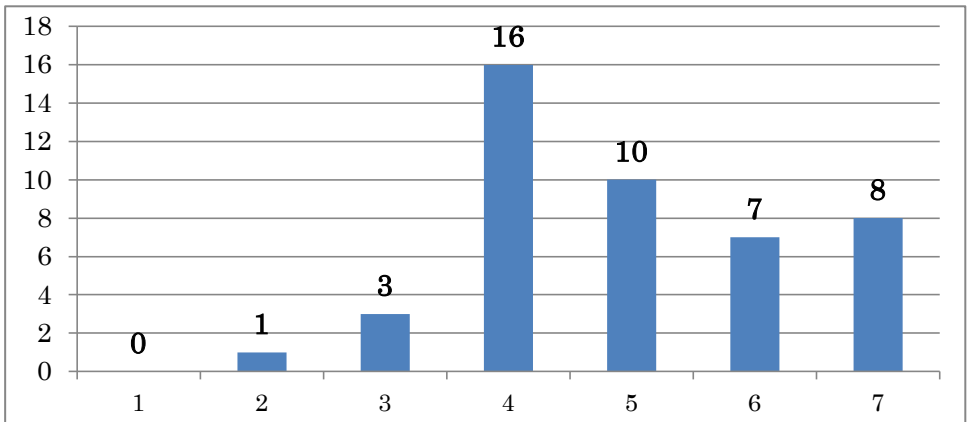

図２１　交流の満足度

３－５．総合満足度

総合満足度(図 22)では、平均点は 4.55 点、最多の回答は 5 点(30.8%)であった。
とても不満、不満やとても満足と答えた方は少なく、どちらでもない、少し満足に回答が集中した。

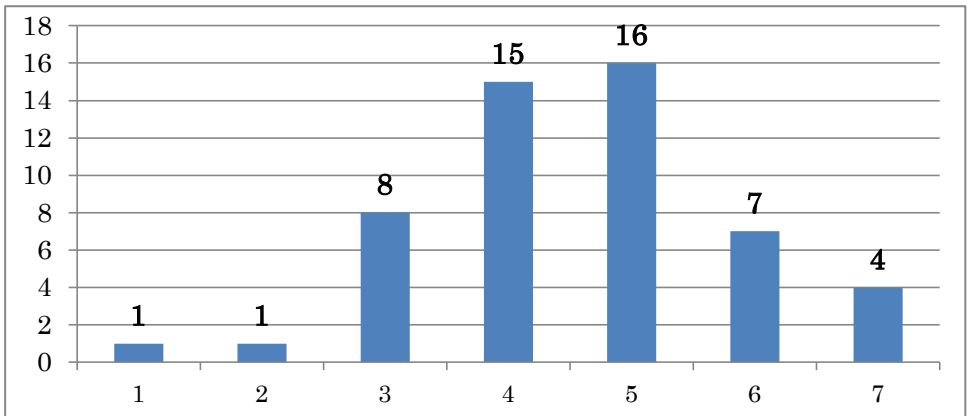

図２２　総合満足度

４．復興感と集会への参加意思

４－１．復興の実感

復興を実感することはあるかという問いに対しての回答が図 23 である。実感すると答えた方は全体の 36%であった。理由としては、「生活が以前の生活に近づいてきた」「人とのつながりの中で感じる」というものがあった。

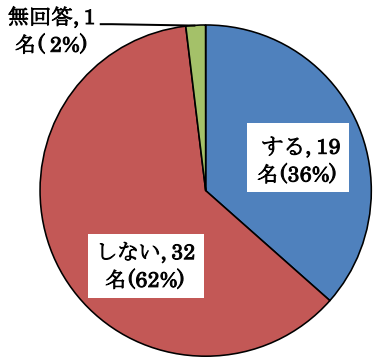

図２３　復興の実感

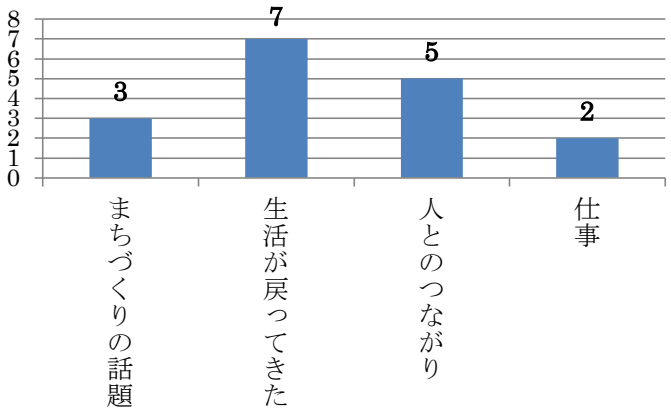

図２４　実感する要因

1 年後の生活は良くなっていると思うかという問いに対する回答を示したのが図 25 である。31%の方は「はい」と回答したが、残りおよそ 7 割の方は「いいえ」もしくは「考えられない」と回答した。仮設住宅から出て行かなければならない時期が近づき逆に不安が大きくなるのではという意見も挙げられた。

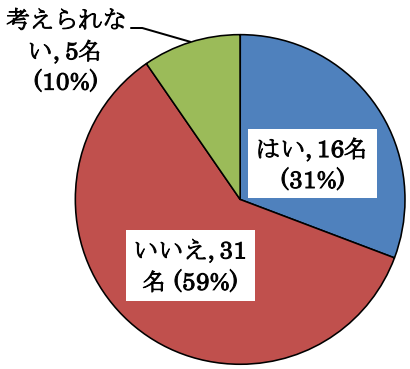

図２５　1年後の生活は良くなっていると思うか

４－２．９月の復興まちづくりの会の参加

図 26 は、9 月に宮古市が行なった復興まちづくりの会への参加状況を示したものである。参加した人は 13%であったが、不参加者の中でも「夫が参加した」「知り合いから内容を聞いた」などの回答が見られた。不参加理由を見ても、都合がつかない為に参加できなかったという方が 21 名(44 人中 47.7%)おり、関心が無いという方は少なかった。また、知らなかった・忘れてしまったという理由で参加しなかった方もあり、情報の共有というのが課題として挙げることができると考えられる。

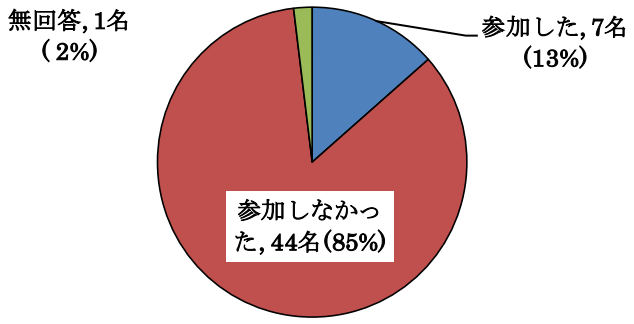

図２６　復興まちづくりの会の参加

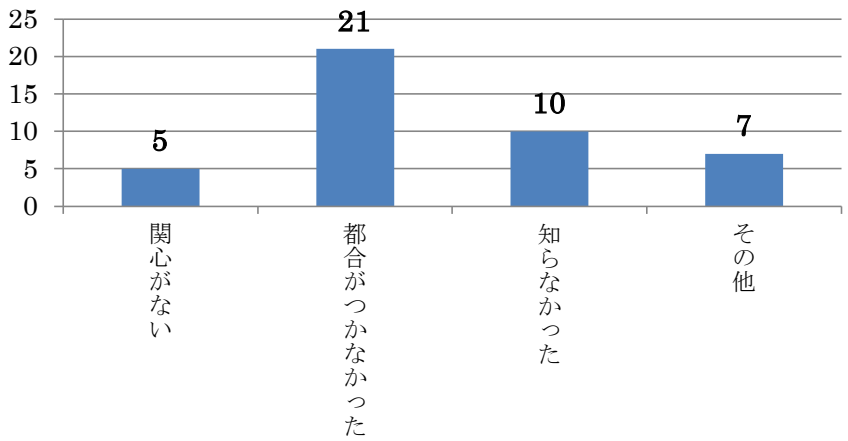

図２７　復興まちづくり会の不参加理由

４－３．今後の集会の参加意思

今後の集会の参加意思(図 28)では、「参加したい」「興味はある」を含めると 44 名(88%)となり、住民の方の集会への意欲、関心は高いということが言える。

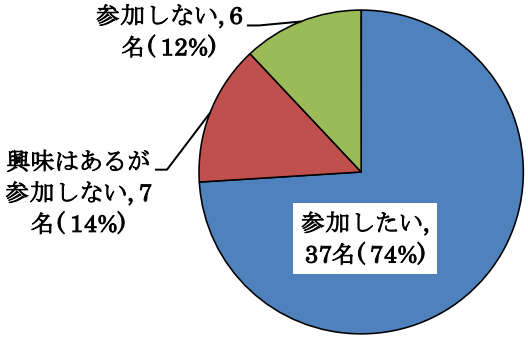

図２８　今後の集会への参加意思

参加条件(図 29、複数回答有り)としては、「時間の拘束がない」が最多の回答となった(52 人中 38.5%)。9 月に行なわれた復興まちづくりの会の不参加理由で「都合が合わなかった」という回答が多かったことからも、時間が合えば参加するという考えを持った方が多くいることがここからわかる。集会を行なうスケジュールや、同じ内容で複数回実施するなどの工夫を検討すべきであると考える。

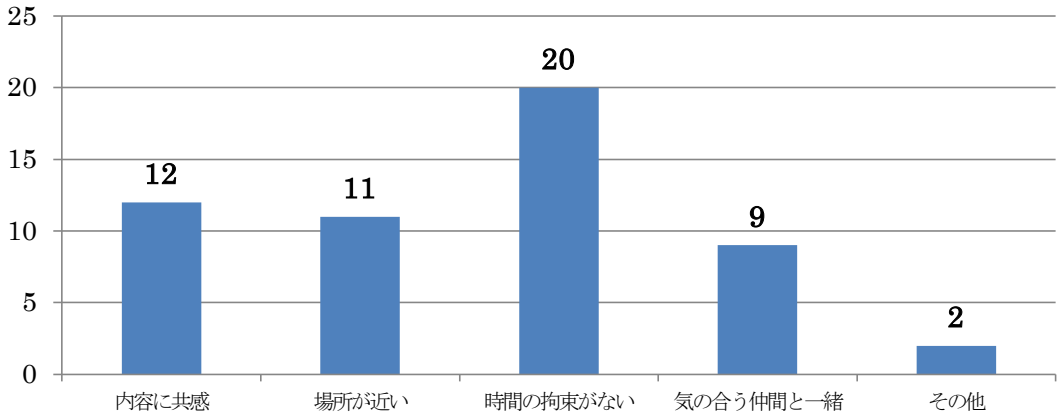

図２９　今後の集会の参加条件

４－４．復興感の特徴

復興の実感と各満足度（衣食住、交流）との関係を、多重ロジスティック回帰分析で調べたところ交流の満足度との相関が１番強いことがわかった。(偏回帰係数 0.9785、95%下限 0.2282 上限 1.7288、オッズ比 2.660495%下限 1.2563 上限 5.6338、Ｐ値 0.0106)

下の表１を見てもわかるように、復興の実感がない人は交流の満足度もそれほど高い値を示しておらず、復興の実感がある人ほど交流の満足度は高い値を示している。

表１　交流の満足度と復興の実感との関係

	復興の実感ない		復興の実感ある		無回答		総計	
交流満足度	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1 点	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
2 点	1	2%	0	0%	0	0%	1	2%
3 点	3	6%	0	0%	0	0%	3	6%
4 点	**12**	**23%**	4	8%	0	0%	**16**	**31%**
5 点	7	13%	3	6%	0	0%	10	19%
6 点	3	6%	4	8%	0	0%	7	13%
7 点	2	4%	**5**	**10%**	1	2%	8	15%
無回答	4	8%	3	6%	0	0%	7	13%
総計	32	62%	19	37%	1	2%	52	100%

５．７月の調査結果との比較

７月に当研究室で行ったヒアリング調査との結果を比較する。ここでは７月、10 月両方の調査にご協力いただいた方 20 名を対象とする。

５－１．買い物について

買い物の活動状況の７月、10 月の結果をまとめたものが図 30～33 である。

行き先については(図 30)、７月の時点では宮古市街地に出かける方が大半だったのに対し、10 月ではたろちゃんハウスの利用が多くなっている。これは前身のたろちゃんテントから現在のたろちゃんハウスに変わったことで、利便性の向上によりこのような結果となったと考えられる。

交通手段については(図 31)、たろちゃんハウス利用の増加に伴って徒歩が大幅に増加している。交通手段の中で１番利用者が減少したのがバスであるが、これは今までバスで宮古市街地に買い物に出かけていた人達がたろちゃんハウスに転換したことが要因であると考えられる。

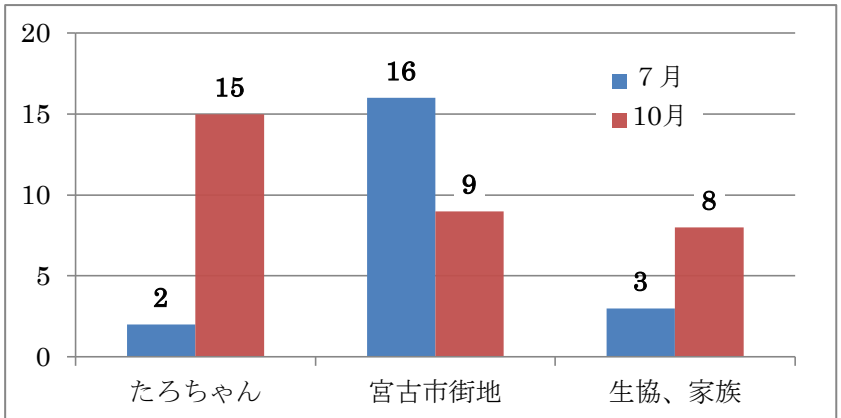

図３０　買い物行先の比較

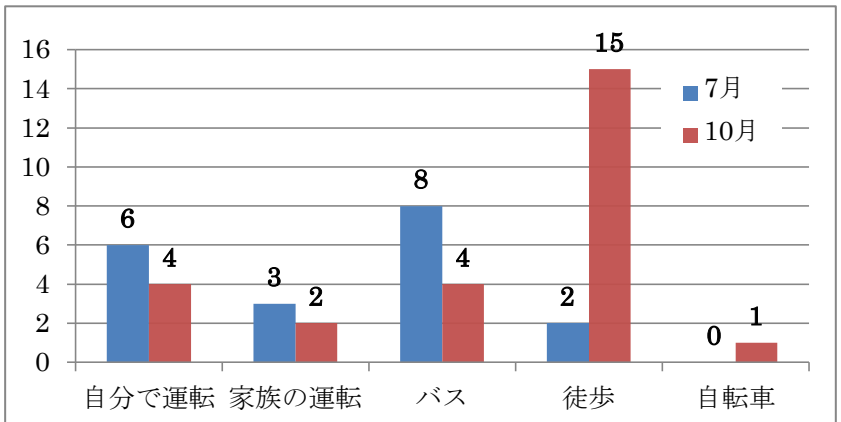

図３１　買い物交通手段の比較

時間帯では(図 32)、7 月に午前と答えた方が多かったのに対し、10 月では午後という回答が多くなった。これも午前中に宮古市街地へ出かけていた人達が、午後にたろちゃんハウスに出かけるようになったためである。

頻度では(図 33)、7 月・10 月どちらの場合でも週 1，2 回が多いが、10 月では週 3 回以上という回答が増加している。たろちゃんハウスの近場で気軽に買い物できるという利点からこのような結果となったと考えられる。

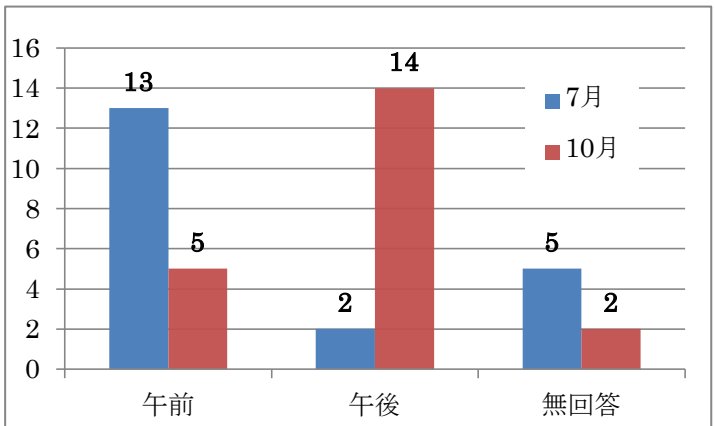

図３２　買い物時間帯の比較

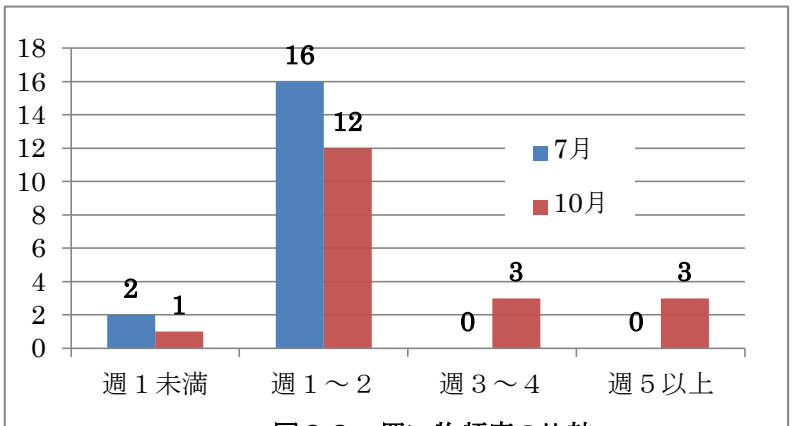

図３３　買い物頻度の比較

５－２．通院について

7 月、10 月の通院の活動状況についてまとめたものが図 34～36 である。

通院の行き先では(図 34)、7 月と 10 月の間に大きな違いは見られず、グリーンピア内の診療所に通っているという回答が多かった。

交通手段(図 35)や時間帯(図 36)でも、同様に大きな変化は見られなかった。

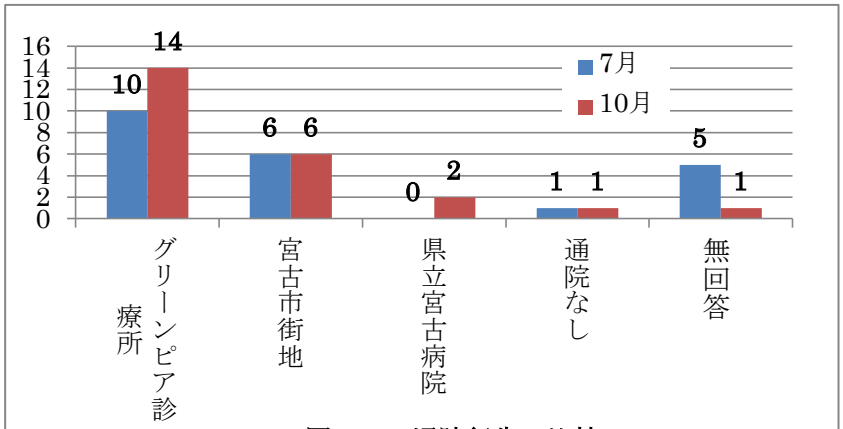

図３４　通院行先の比較

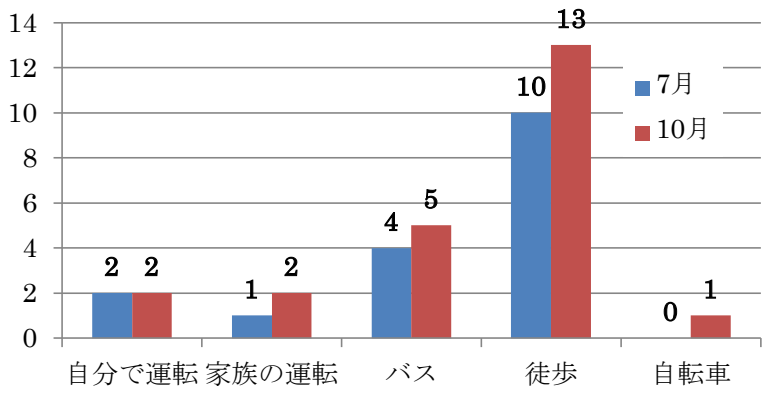

図３５　通院交通手段の比較

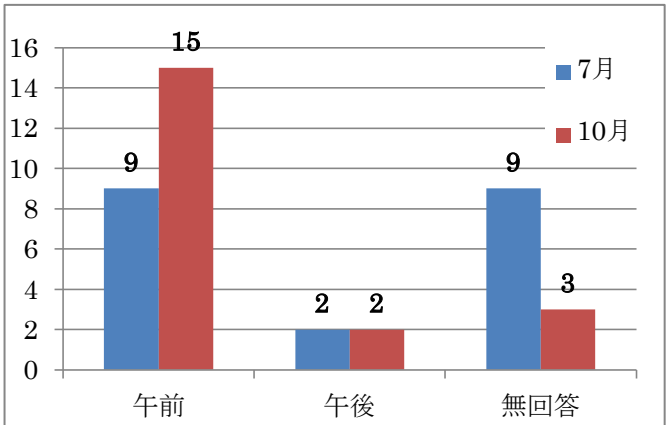

図３６　通院時間帯の比較

５－３．満足度について

図 37 は 7 月と 10 月の衣の満足度を示したものである。7 月では平均点は 4.83 点、中央値は 5 点(少し満足)であった。10 月では平均点が 4.37 点、中央値は 4 点(どちらでもない)であった。冬物の衣装が少ない、出かける時の服が無いなどの意見が多く、このようなことが、満足度が下がった原因として考えられる。

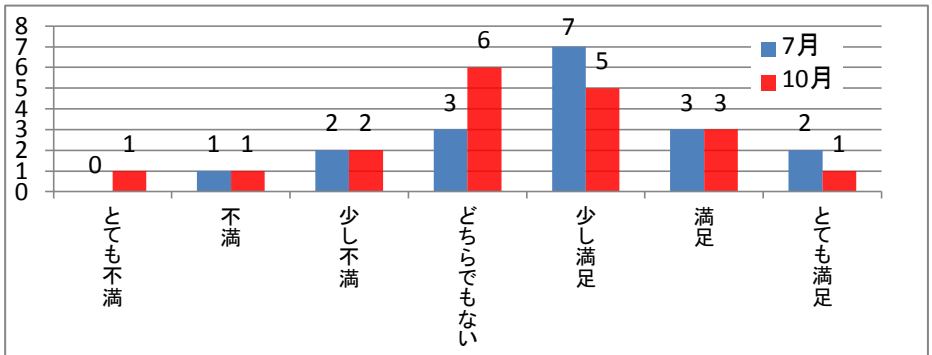

図37　衣の満足度比較

図 38 は食の満足度を示したものである。7 月は平均点が 5.33 で中央値が 6 点(満足)。10 月は平均点が 5.45 で中央値が 5 点(少し満足)であった。食の満足度も 7 月から 10 月にかけて上昇していて、平均点も 5 点以上を維持しており、これは他の項目では見られないことであった。ヒアリングを行なった中でも「3 食きっちり食べている」「震災前の食事に近づいてきた」などの声が多く、7 点(とても満足)の回答も増加している。近所から食材をもらうことがあったり、買い物がしやすい環境が整ったりと、時間の経過につれてプラスな面も現れていると考えられる。

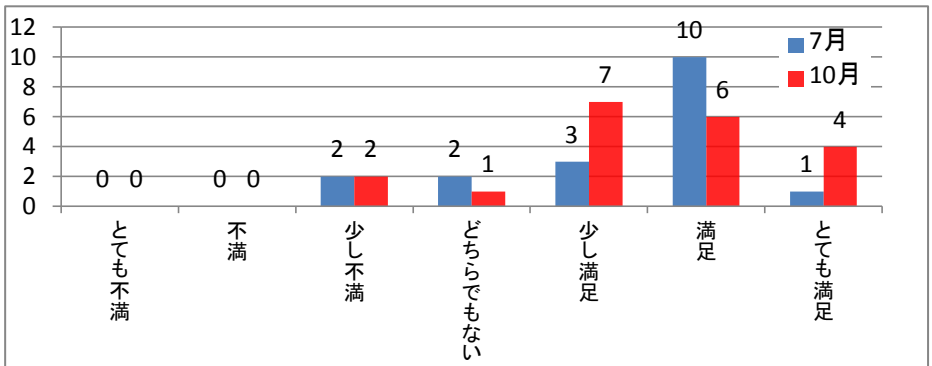

図38　食の満足度比較

住の満足度は(図 39)、7 月の平均点 4.39 で中央値は 5 点であった。10 月の平均点は 4.44 で、中央値は 5 点であった。7 月と 10 月との間に大きな変化は見られなかったが、10 月の方が、若干満足度が高いことがわかる。

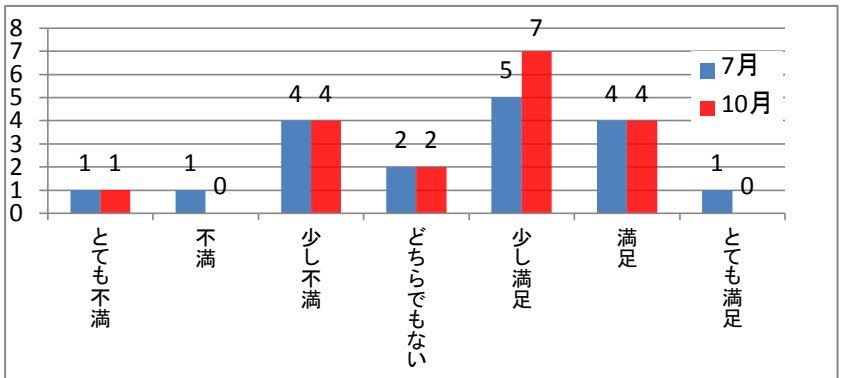

図39 住の満足度比較

交流の満足度は(図 40)、7 月の平均点は 5.39 で、中央値は 6 点。10 月の平均点は 4.63 点で、中央値は 4 点であった。満足度は下がっているが、「ほぼ毎日近所と顔を合わせている」などの意見も多かった。

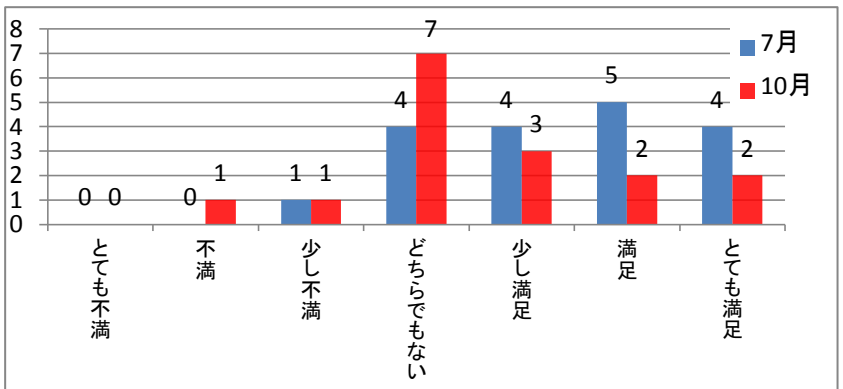

図40 交流の満足度比較

総合満足度は(図 41)、7 月の平均点は 5.23 で、中央値は 6 点であった。10 月の平均点は 4.56 で、中央値は 4 点と 5 点であった。ほとんどの項目の満足度が減少した影響で、総合満足度も減少している。これは今の生活に段々と慣れていく過程で、生活に対する理想が高まり、満足度が減少していったものであると考えた。その中でも、食の満足度は低下の程度が小さく、たろちゃんハウスでの買い物が便利になったことが要因として考えられる。住の満足度についても低下の程度が小さい。これは 9 月頃に行なわれた仮設住宅の改築が要因として考えられる。

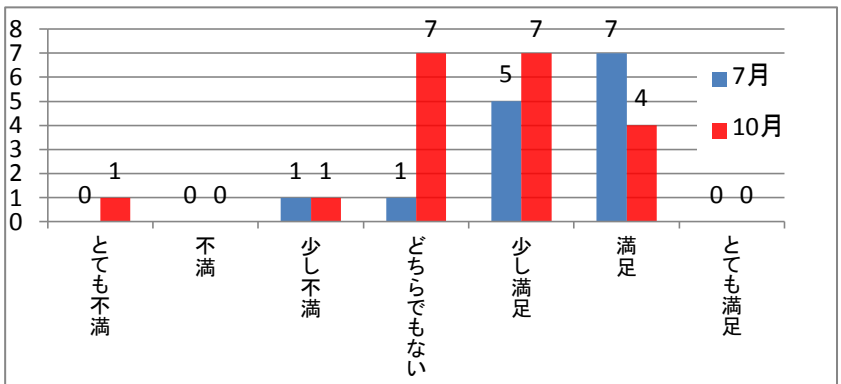

図41 総合の満足度比較

衣食住、交流、総合の計 5 つの満足度について、7 月と 10 月の間で 20 名のそれぞれがどのような変化をしたかについて、まとめたものが図 42 である。

食については、7 月から 10 月にかけて満足度が上昇した割合が他に比べ高い。住では満足度が下降もしくは維持した方の割合が大きい。他の項目では、10 月にかけて満足度が低下した方の割合が 1 番大きい。

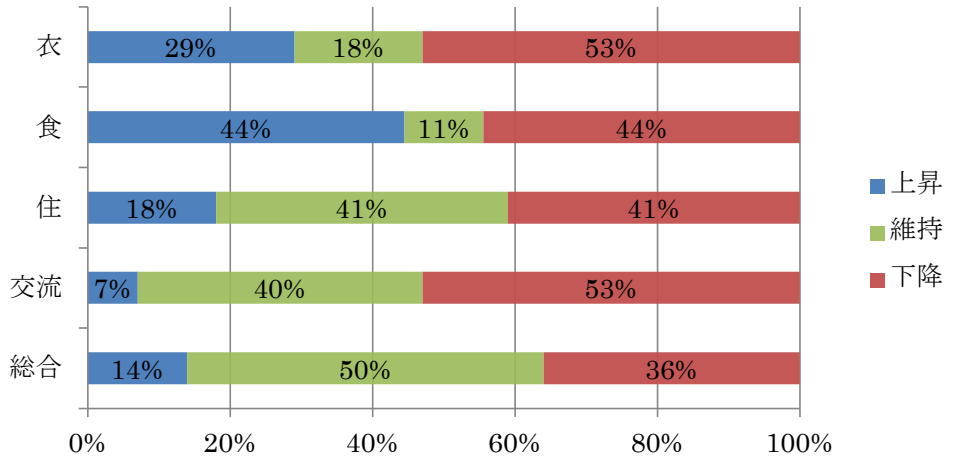

図42　満足度の変化

Ⅲ．自由記述集

得られた記述回答を設問ごとにまとめた。

問１－１．買い物

（たろちゃんハウスについて）

・どこに何があるのかわからない　・店舗が別々に分かれていてわかりやすい
・車いすで２階に行けない　・生モノが買えて嬉しい
・好きな時に買い物ができる　・買うものがわかりやすい

問１－３．交流・つながり

・ほぼ毎日コミュニケーションをとれている　・外に出れば誰かいる
・なかなかコミュニケーション無い　・毎日息子夫婦が来る
・会ったら話す程度　・近所の人とは毎日会う
・コミュニケーション増えた分プライバシーの心配
・会いたくない時も会ってしまう

問２－１．衣の満足度

・よそへ行くときの服がない　・まだ服が足りない
・必要な服だけで我慢　・サイズが合わない服が多い
・出かける服がない　・冬物が心配

問２－２．食の満足度

・けっこういっぱい食べられている　・たろちゃんハウスで買えるもので済ませる
・肉系が食べられるようになった　・前より良くなった
・鮮度のいい物が食べられない　・何か食べたいと思ってもそれが叶うわけではない
・震災前の食事に近づいてきた

問２－３．住の満足度

・スロープがついた　・道が舗装されて歩きやすい
・玄関良くなった（風除室が設置された、雨が入らない）
・畳欲しい　・部屋狭い
・一人暮らしには十分な広さ　・ストーブ怖い
・エアコンの向き　・暖かくなった
・どこまでが自分の土地で、物を置くなど勝手にやっていいのかが分からない
・隣近所とのコミュニケーション増えた　・対応遅かった

問２－４．総合満足度

・震災前の生活と比べると低いが　・とりあえず満足
・まだゆったりできない　・満足でも不満でもない
・隣が近くて窮屈　・感謝の気持ちを忘れないように

問２－５．復興の実感

・仕事ができた　・計画が見えない、早く示してほしい（仮設を出た後のこと）
・情報が来ない　・港の作業が始まってきた

問２－６．１年後の生活は良くなっていると思うか

・逆に不安が大きくなる　・そのまま変わらないのではないか
・なって欲しい　・心配のほうが多い
・考えられない　・国からの支援があれば

問３－１．９月の復興まちづくりの会について

・年寄りなので行かなかった　・夫が行った
・周知が足りなく、わからなかった
・忘れていた

問３－１．今後のまちづくりに向けた話し合いについて

・若い人たちに任せたい　・市の動きを知りたい
・一般人にもわかりやすい説明を　・情報の共有を
・市からの一方的な報告会だった。住民の方からも意見を出したい